

平成 29 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価(3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 定時制生徒の多様なニーズに応える教育課程編成を工夫する。</p> <p>② 生徒の主体的な学びを促すため、組織的な授業改善に取り組む。</p>	<p>① 平成30年度入学生の卒業に向けた道筋を明確に示すことのできる教育課程の実践に向けた準備を行う。</p> <p>② アクティブラーニングの視点に立った生徒参加型の授業改善を教科ごとに図る。</p>	<p>① 生徒の多様なニーズに対応できるよう定通併修科目や学校設定科目の編成等を含め、引き続き検討を進める。</p> <p>② 前年度の取り組みを踏まえ、各教科の特性を生かした「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した公開授業をすべての教科で取り組む。</p>	<p>① 平成30年度入学生の4年間の教育課程が編成できたか。</p> <p>② すべての教科で「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した公開授業を実施できたか。</p>	<p>① 平成30年度入学生の教育課程表については、選択科目の配置等を含めて編成することができた。</p> <p>② 生徒による授業評価の集計結果を基に各教科で「授業改善のポイント・具体策」を検討・実践し、達成状況や展望を年度末に取りまとめ、報告することができた。</p>	<p>① 定通併修科目については、新たな教科・科目の開設も含めて引き続き検討する必要がある。</p> <p>② 各教科の公開授業を多くの職員が参観できるよう日程を組むことが困難であり、方法の工夫が必要である。</p>	<p>① 教員の多忙の中、選択教科の整理も必要と思われる。 選択科目は、履修しやすくするために、メニュー化することもよいのではないかと。</p> <p>② 公開授業は、一定期間を設けて、参観できるようにするのもよい。 全教員が授業参観をできなくても、全教員で協議を行って、ヒントになるものをシェアできるとよい。</p>	<p>① 教育課程検討会を3回開催し、平成30年度入学生の教育課程を確定し、5月の職員会議で決定することができた。 進路実現にむけて多様な単位の修得ができるように、科目の設置をすることができた。</p> <p>② 各教科の科目の特性に応じた主体的な学習の方策について検討協議することができた。</p>	<p>① 今後も教育課程検討会を定期的に行い、科目の設置や選択群の編成等について、継続的に協議する必要がある。</p> <p>② 本校の生徒に適したアクティブラーニングの視点に立った授業を継続的に構築していくことが必要である。</p>
2 生徒指導・支援	<p>① 生徒一人ひとりの個に応じた相談体制・支援体制の充実を図る。</p> <p>② SC、SSWとの連携のあり方を研究し生徒の支援に活かす。</p>	<p>① SSW、SC、教職員の三者の協力体制を強化し、有効な活用を図る。</p>	<p>① SSW、SCの有効な活用方法を検討し、SSW、SCを活用しやすい環境作りを行う。</p>	<p>① SSWとSC両者の連携による外部機関との連携件数が昨年度より増加したか。</p>	<p>① SSWが週2日の勤務となったこともあり、SCとの連携による外部機関への相談件数は増加している。SCの要請によりSSWを活用するケースが多い。</p>	<p>① SSWが週2日の勤務になった効果は大きいですが、勤務曜日の関係でSCが同一日勤務になることがない。ファイル等で情報共有はしているが、もっと効果的な方法を模索中である。</p>	<p>① 相談件数がこれだけ多いのだから、SSWの勤務日をもっと増やし、さらに充実した支援ができるようにすべきである。 月1回教育相談グループで集まり、情報を共有することが大切である。</p>	<p>① SSWが週1日から2日になったことにより、相談件数が2倍となった。SSWが扱いきれていない件もあると思われる。 両者のサポートを必要とする生徒も多くいるので、連携をより密に行えるような環境づくりを構築する必要がある。</p>	<p>① 来年度は、SSWとSCの連携がより取れるような勤務日を設定する。 教育相談グループが中心となった情報共有ができるようにする。 また、生徒支援が扱う案件にはSSWやSCの支援が必要な生徒も多いので、生徒支援と教育相談の連携も必要である。</p>
3 進路指導・支援	<p>① 発達段階に応じた支援を通じて、生徒個々のキャリア発達を促す。</p> <p>② キャリア教育の充実を図り社会をたくましく生き抜く力を育成する。</p>	<p>② 進路説明会や面談等を多く実施し、個々の生徒に応じたきめ細かな指導を行う。</p>	<p>② 生徒の進路希望に合わせた就職ガイダンスや進学ガイダンスを実施し、個々の生徒の進路希望が実現できるよう分野別ガイダンスを行う。</p>	<p>② 卒業年次の生徒が進路希望の実現に向けて活動することができたか。また、1～3年次生が卒業後の目標を見つけてきたか。</p>	<p>② 就職および進学ガイダンスを各3回行い、時期に合わせて生徒の活動を説明しサポートした。6月の分野別ガイダンスにおいても生徒の意識を高めることができた。就職に関しては、合同説明会への引率も行った。</p>	<p>② キャリアGからは全体への説明をして個々の生徒へのサポートを行うが、担任と生徒との関わりが重要となるので、担任から生徒へ各ガイダンスに参加するよう呼び掛けることに課題が残った。</p>	<p>② 進路決定体験発表会は、進路選択を間近に控えた3年生に多く聞いてもらおうと、効果的である。 本校の卒業生が進路選択の体験、進路先での状況等を後輩に伝えると、在校生も実感を持って聴けるのではないかと。 インターンシップの発表会では、自己実現しているの、達成感が持てると思う。</p>	<p>① ガイダンスで説明したことによって、今年度は、就職活動や進学活動が例年になく早く取り組んでおり、夏休みに活動する生徒が多かったので、21名と就職希望者の半数の生徒の内定を得た。 多様な進路に対する指導が難しい。 職員室が2つに分かれているので、1・2年次に対して進路指導のノウハウの継承が行いにくい。</p>	<p>① 全体にアナウンスするとともに、担任への指導内容の周知を徹底し、個別の指導を担当が細かく行えるようにすることが重要である。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価(3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	①地域との協働を推進し、「学びのネットワーク」のターミナル機能を担う。 ②地域防災の取り組みを推進する。	①コミュニティスクールの取組みを進め、地域との協働をより推進する体制づくりを行う。	①学校運営協議会や学校設置部会の開催により、課題を整理しながら検討し、目標の共有を図ることで、地域の力を活用した教育活動を実践する。	①学校運営協議会や学校設置部会を計画的に開催し、学校運営の方針や、課題解決に向けた取組みについて協議し、具体的な実践を行うことができたか。	①5月に第1回学校運営協議会を開催し、学校設置部会、基本的な方針、重点目標を決定した。	①委員が出席しやすい日程調整が難しいことや、学校設置部会の具体的な取組を進めることが課題である。	①学校運営協議会は、休日に開催したほうが良いが、教員の負担ともなるので、学校説明会などで休日に教員が出勤しているときなどを活用して、教員の負担にならないように開催できると良い。	①本年度は導入年度でもあり、本格的な活動の準備の検討を主にやっている。 学校設置部会の具体的な活動を計画し実施する必要がある。	①学校設置部会を開催し、各部会の課題の検討を進める必要がある。
5	学校管理 学校運営	①信頼され、安心して通える学校づくりを推進する。 ②適切な情報発信を行い昼間定時制への理解を広める。	②地域に根ざした学校を目指し、HP等において、保護者・地域への情報発信を充実する。	②本校の取り組みを地域に発信するため、ホームページの改善と充実に取り組む。	②ホームページの更新回数が昨年度より増加したか。	②学校行事や保護者会行事等の写真を充実させた。また更新回数も増加した。	②HPの更なる内容の充実を図るとともに、閲覧のし易さを改善・工夫したい。	②今年度HPを閲覧したら、改善されて見やすくなっていることを実感した。 HPの「校長より」には、校長の顔写真を入れたほうが身近に感じられる。	②今年度は4月からの更新回数が3月21日現在70回と、昨年の20回より増えた。 行事等の開催結果が多いので、行事の予定を増加させることも大切である。	①HPに載せる企画を予め年度当初に計画を立てることで、より迅速でわかりやすいHPの作成を行うことができる。